

下館ロータリークラブ会報

発行日：平成 30 年 12 月 12 日 第 02497 号



本日のプログラム

年次総会・外部卓話
ボーイスカウト・ガールスカウト

次週のプログラム

クリスマス例会

筑西市の木 さくら

市内の全域に数多くの品種が植栽されており、名所も多く、広く市民に親しまれています。

春、咲き誇る姿は美しく、存在感があり、また優しさも感じられます。



筑西市の花 春の花 なしのはな

筑西市は日本で最も古い梨の産地のひとつ。県の銘柄産地に指定される国内有数の産地です。梨の白い花は、清楚で気品が漂い優しさを感じられます。市の繁栄のシンボルとしてふさわしい花です。



筑西市の花 秋の花 コスモス

可憐でありながら、倒れても立ち上がる力強さを持つ花です。『宇宙』という意味があり、市の将来性と可能性を象徴しています。また『調和』の意味もあり、4市町合併で誕生した筑西市をイメージできます。



筑西市の鳥 つばめ

田植え期の田園を飛び交い、躍動感を感じさせるその姿は、筑西市の将来像にふさわしい鳥です。益鳥であり、幸せを呼ぶといわれています。軒先に巣を作る姿をよく見かけ、親近感を感じる鳥でもあります。



会長／永井啓一 副会長／新井和雄 幹事／潮田武彦 会長エレクト／岩崎晴男
クラブ会報・広報委員会 委員長／堀江 勤 副委員長／中里泰久・武井宏樹



前例会報告 第2858回 2018/12/5(水)

お客様 ようこそ下館RCへ

梶井英治様

(茨城県西部メディカルセンター病院長)

会長挨拶 永井啓一 会長

本日のお客様を紹介いたします。茨城県西部メディカルセンター病院長 梶井英治様です。卓話をお願いしております。先生は自治医科大学の1期生で医療の現場で活躍され、茨城県西部メディカルセンターに赴任され県西地区の医療にご尽力されています。会員皆様には師走に入り、ますますご多忙のことと存じます。今年のカレンダーも残り1枚になりました。12月はロータリーでは疾病予防と治療月間です。私も特定検診、人間ドック等病気の予防に努めていますが、いつ重篤な病気や傷害になるかも知れません。その時思い出すのが元自治医科大学の教授であった田中先生の言葉「鰯の急」です。車輪の後にできた水溜りの中にいる鰯は、水が今にも無くなりそうで死にかけている。少しの水でも今すぐもらえる方が大切だとの故事から取ったと思います。そして今すぐ適切な治療をすることが大切という意味だと理解しています。西部メディカルセンターは複雑、高度な医療に対応して頂けると聞いております。疾病予防と治療月間ということで、本日の卓話をお願い申し上げます。

梶井様のますますのご活躍を祈念申し上げて挨拶とさせていただきます。本日の卓話、宜しくお願い致します。

理事会報告 潮田武彦 幹事

1. 2月プログラム承認
2. 茨城新聞社年賀広告について(掲載日1月1日)
3. 母子島遊水地のベンチの寄贈について

幹事報告 潮田武彦 幹事

- 米山奨学生選考の案内
- この指とまれ支援金19万5,000円に変更

- 7RC親善ゴルフ大会の収支報告書受理
- 2018年12月ロータリーレート 1ドル=112円
- 岩瀬RCより現況報告書受理・会報受理
- 保延年度年次報告受理
- バギオ基金2017年度事業報告書受理
- ロータリーの友より事業報告書受理
- 地区財団ニュース11月号受理
- 財団室ニュース12月号受理
- 青少年委員会だより受理

卓話

梶井英治 茨城県西部メディカルセンター病院長



茨城県西部メディカルセンターのご紹介

皆様のご支援のお陰をもちまして茨城県西部メディカルセンターは、開院して2か月を迎えることができました。本日は当センターについてお話をさせていただく機会をお与えいただき、心から感謝申し上げます。

(1) 茨城県西部メディカルセンターの役割と現状
地方独立行政法人茨城県西部医療機構が運営する茨城県西部メディカルセンター(以下、西部メディカル)と筑西市民病院跡地に設置されました筑西診療所が、本年10月1日に開院いたしました。

この二つの医療機関がそれぞれ急性期医療と在宅医療の拠点となり、医師会、医療機関、行政、住民の皆様と連携し、当地域の地域医療の充実を図ってまいります。

西部メディカルは、2次救急医療(緊急性が高く入院治療や早期の手術が必要となる救急医療のこと)と急性期入院治療を担ってまいります。

平成27年度の筑西広域消防の救急車出動に関するデータをみますと、年間約7,500台でし



た。その中で、当医療圏内での受け入れは約60%にあたる約4,600件でした。住民説明会の際に、搬送先が決まるまでの自宅前待機の時間が30分以上かかっている、いわゆる搬送困難事例が少なくないとの発言も寄せられました。こういった事例を少なくするためには、当医療圏内での受け入れ体制の充実が望まれます。そこで、西部メディカルでは、年間の救急車受け入れ件数2,500台を目標値としています。1日あたり6.8台となります。この数値がクリアできると、医療圏内での救急車受け入れが8割を超えることとなります。

開院後、救急には積極的に取り組んでまいりました。救急車受け入れ台数は、多い日は10数台に達し、目標値はクリアできそうですが、一層の努力を重ねてまいりたいと思います。

入院治療につきましては、積極的に急性期治療に取り組んでいます。重症の患者さんも多く、15床の高度治療室(HCU)の高い稼働率につながっています。

西部メディカルが2次救急や急性期の入院治療を必要とされる患者さんにより注力していくために、外来は紹介状をお持ちの方を中心に診察させていただきたく思います。そのために住民の皆様には、2人主治医制をお願いしてまいりました。第1の主治医はかかりつけ医です。病気のことのみならず、健康のことや介護のことまで、なんでも相談でき、治療やアドバイスをいただける医師がいわゆるかかりつけ医です。第2の主治医は西部メディカルの医師です。普段は第1の主治医にかかり、精密検査や入院治療が必要になった時には、第1の主治医から第2の主治医に紹介いただき、迅速に対応させていただきます。状態が落ち着いたのちは、第1の主治医のもとに再び紹介させていただきます。1人の患者さんを2人の医師が見守っていることとなります。

病院間の病病連携も不可欠です。高度な治療が必要な時には、周辺の大学病院を始め高度医療機関との円滑な連携が図られるように、協議を進めてまいりました。また、急性期の入院治療が終わった後も、入院治療の継続が必要な場合には、さくらがわ地域医療センターをはじめ、回復期の治療を担当される病院に紹介させてい

ただきます。同センターとは、患者さんの紹介のみならず、医師同士の交流も図り、強い協力関係を築いていきたいと思っています。

西部メディカルは、地域災害拠点病院としての役割も担います。健康づくりや病気の予防にも積極的に関わってまいります。さらに、医療人の育成にも尽力いたします。筑波大学と自治医科大学の地域臨床教育センターが設置されました。両大学の学生や研修医を積極的に受け入れてまいりたいと思います。看護師をはじめメディカルスタッフの教育にも力を入れてまいります。

(2) 病院スタッフ挙げた“わ”づくり

西部メディカルが開院して、2か月あまりが経ちました。患者さんへのご対応や言葉遣いなどの接遇面において、ご利用の方から問題点をご指摘いただいています。一つひとつが解決しなければならない重要な課題です。接遇研修も企画していますが、職員一人ひとりが真に患者さんの立場に立って考えられる『こころ』を持つことが大切です。職員にはフェイス・ツー・フェイスで話しかけ、『こころ』を育てていきたいと思っています。

また、限られたスタッフでより大きな力を発揮していくためには、“職員が愛する病院”“職員が働きがいのある病院”にしていかなければなりません。そのためには、職員がお互いを尊重し、皆が一丸となって仕事に取り組むことができる環境づくりをしていかなければなりません。病院長の役割は、地域の皆様のご期待に応えられる病院へと成長させることは勿論ですが、その推進力となる病院スタッフの強力な“わ”を築くことだと思っています。この目標に向かって、現状に満足することなく、焦らず弛まず一步一步、確実に、着実に歩を進めてまいります。





(3)地域の皆様との交流～「病院づくりは地域医療づくり、そして地域(まち)づくり」

病院づくりを進めながら、地域の皆様と交流させていただき、地域医療の充実に向けて一緒に考えてまいりました。住民から住民への働きかけも見られるようになりました。この間に地域医療を守り育てようという地域の“わ”ができ、少しずつ広がりつつあります。この“わ”は地域が一丸となって、暮らしよい地域を創っていく地域力を育みます。これからも、「病院づくりは地域医療づくり、そして地域(まち)づくりへとつながる」を合言葉に、地域の皆様とこの地域力を伸ばしていきたいと思います。

地域に出かけて健康づくりや病気の予防のこと、さらに地域医療の充実に向けて皆様と一緒に意見交換を行う“ナイトスクール”を予定しています。開催の時間帯は名称の通り夜です。ナイトスクールは、毎月1回のペースで、各中学校区(全7地区)をお訪ねいたします。ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本日お話しさせていただく機会をお与えいただきましたことに改めて深く感謝申し上げますとともに、下館ロータリークラブ様の更なるご発展を心から祈念申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



茨城県西部メディカルセンター
茨城県筑西市大塚555番地
TEL.0296-24-9111(代表)

スマイルBOX 神長 宏 寿 副委員長

パートナー誕生 神長宏寿さん

- ▶永井 啓一さん 西部メディカルセンター病院 院長 梶井様、卓話楽しみにしておりました。宜しく申し上げます。
- ▶潮田 武彦さん 梶井様、ようこそ下館RCへ。本日の卓話、宜しくいをお願いします。

- ▶加藤 昌美さん 県西メディカルセンター病院 院長 梶井英治先生、ようこそお出で下さいました。
- ▶小林 一彦さん 茨城県西部メディカルセンター病院 院長 梶井英治様、ようこそお出で下さいました。本日は卓話宜しくお願い致します。
- ▶関谷 徹さん 茨城県西部メディカルセンター 梶井先生、本日の卓話宜しく申し上げます。本日もニューモラルを配布させていただきます。
- ▶永盛 武さん 茨城県西部メディカルセンター 梶井病院 院長様の卓話を記念して。
- ▶鈴木 光則さん 茨城県西部メディカルセンター病院 院長 梶井様、卓話宜しく申し上げます。
- ▶新井 和雄さん 茨城県西部メディカルセンター 梶井院長の卓話を記念して。
- ▶岩崎 晴男さん 梶井先生の卓話を祝して。
- ▶神山 芳子さん 梶井先生、本日はご指導宜しくお願い致します。
- ▶新井 利平さん 県西部メディカルセンター病院 院長様、ご出席ありがとうございました。
- ▶百目鬼博行さん 県西部メディカルセンター病院 院長 梶井様のご来訪を記念して。
- ▶木幡 浩さん 梶井先生、卓話ありがとうございます。
- ▶内山 勝洋さん 茨城県西部メディカルセンター病院 院長 梶井様、本日はようこそお出で下さいました。水戸出張のため、途中退席となります。申し訳ございません。
- ▶塚田 砂与さん 西部メディカルセンター病院 院長 梶井様、本日はありがとうございます。宜しくお願い致します。
- ▶神長 宏寿さん 梶井病院 院長様、本日の卓話宜しく申し上げます。パートナー誕生祝い、ありがとうございます。

本日の合計 21,000円 累計 561,000円

出席報告 神山 芳子 会員

会員数	出席数	欠席数	病欠	免除
31	20	9	1	1

■メイクアップ(敬称略)

12月3日 東京代官山RC例会 神山芳子